月刊 しばうら

2025年 12月号

牛肉営業部

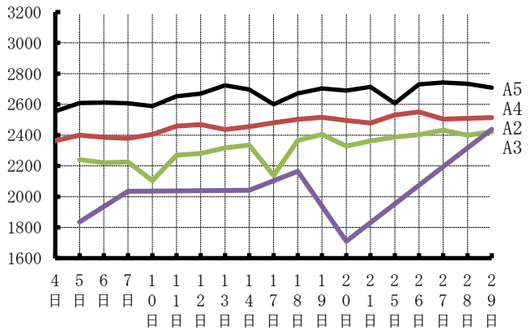
＜11月の相場動向＞

1月は気温が平年並みに推移し、鍋物需要としてスライス材の引き合いが強まったことから、和牛・交雑牛について前年を上回り、前月比でも交雑の 4 等級以外は上回る結果となった。

しかし、ロースの販売不振・輸出の伸び悩み注文がブリスケなどの安い部材に偏っているなど、根本的に消費者の節約志向による牛肉需要の低迷は変わっていない。

また、インフルエンザの流行、中国政府による日本への渡航自粛要請などから、外食店の来客数も想定より伸び悩む傾向も見られている。

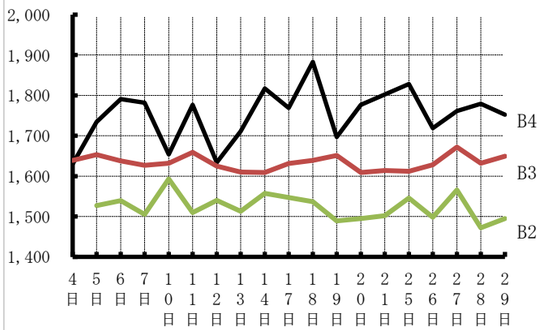
和牛去勢　日別相場表（11月）



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,674円	+25円	100.9%	+146円	105.8%
A4	2,463円	+86円	103.6%	+209円	109.3%
A3	2,316円	+127円	105.8%	+185円	108.7%
A2	2,028円	+215円	111.9%	+121円	106.3%

交雑去勢　日別相場表（11月）



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,743円	+11円	100.6%	-22円	98.8%
B3	1,634円	+45円	102.8%	+25円	101.6%
B2	1,524円	+56円	103.8%	+37円	102.5%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－	－	－
B2	1,215円	+62円	105.4%	+6円	100.5%

＜12月の輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、10 月の輸入量は前年同月比 11.9%増の 4 万 9,185 t で、うちチルドは 5.5%増の 1 万 6,564 t と前年対比で昨年 12 月以来の増加となった。要因としては、入船遅延の反動や現地相場・国内相場の高騰を見据えて買付を進めたことが考えられる。

フローズンは、前年同月比 15.5%増の 2 万 2,621t と大きく上回った。円安と需要期を見据えて調達を増やしたためとみられる。

農畜産業振興機構によると 11 月の牛肉輸入数量予測は、前年同月比 17.1%増の 4 万 500t（チルド 0.5%増・冷凍 28.0%増）、12 月は 1.6%減の 3 万 8,600t（チルド 11.2%減・冷凍 5.1%増）と予測している。11 月のチルドは前年の輸入量が低水準であったこと等から、前年同月をわずかに上回る一方、12 月は現地価格の高止まりなどから前年同月を大きく下回ると予想している。

フローズンは米国産ショートプレートや、豪州産の加工用のひき材等に使用されるトリミングの輸入量増加が見込まれることから 11 月は大幅に、12 月は小幅に、前年を上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,273	7,436	124.7%
	米国	5,945	6,787	87.6%
	その他	1,346	1,481	90.9%
	合計	16,564	15,704	105.5%
フローズン	豪州	16,798	13,428	125.1%
	米国	11,144	9,101	122.4%
	その他	5,704	5,704	129.5%
	合計	32,621	28,233	115.5%

出典：食肉速報　　単位：t

＜12月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 12 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 104.2%の 10 万 5,000 頭で、品種別にみると和牛は 7.9%増の 5 万 5,900 頭、交雑種は 10.2%増の 2 万 5,800 頭、乳用種は 9.0%減の 2 万 2,800 頭と予測している。

東京食肉市場の 12 月のと畜頭数は 8,550 頭（前年比 98.3%）を予定している。

＜12月の牛枝肉相場見通し＞

12 月の出荷予測は和牛・交雑とも増える見込みで、需要と供給のバランスが崩れる可能性が考えられる。

しかし、輸入牛肉の不安定な入荷状況によって、外食産業の仕入れに支障をきたす状態が続くと、交雑牛を中心に底堅い展開となることも考えられ、特に令和 8 年のせり始めが 1 月 6 日と比べて遅いことから、最終週の相場は堅調に推移すること予想される。

末端消費はまだまだ弱いが、鍋物需要・年末需要の活性化に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700～2,800	B4	1,800～1,950
A4	2,400～2,500	B3	1,600～1,800
A3	2,200～2,400	B2	1,450～1,600
A2	2,000～2,200		
乳牛去勢			
B3	1,300～1,400		
B2	1,200～1,300		

豚肉営業部

10 月の全国と畜頭数は 147 万 7,873 頭（前年同月比 1.5%増）と前年を上回った。また、10 月の豚肉通関数量は 8 万 4,953t（同 2.1%減）と前年を下回り、前月比では 11.4%増となった。内訳はチルドが 3 万 8,494 t （同 12.6%増）、フローズンは 4 万 6,459t（同 11.7%減）となった。

2024-2025年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
比	102%	98%	103%	104%	102%	103%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

10月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,194	99.1%	デンマーク	3,648	77.3%
カナダ	21,207	121.4%	スペイン	13,923	92.9%
メキシコ	4,091	120.1%	メキシコ	4,600	84.1%
			アメリカ	4,077	68.7%
			カナダ	2,974	61.1%
合計	38,494	112.6%		46,459	88.3%

単位：t

＜11月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
4日	73,000	594	579	938
5日	69,900	595	573	1,009
6日	71,500	569	544	1,145
7日	68,300	561	546	1,111
10日	69,100	568	552	830
11日	70,000	606	595	839
平均	70,300/日			979/日

連休明けの全国と畜頭数は 7 万頭を上回った。出荷頭数が増えてきたことで枝肉相場は 500 円台の軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	69,700	606	553	604
13日	69,700	590	573	1,005
14日	68,300	598	584	1,008
17日	70,800	616	605	809
18日	70,700	606	583	1,066
19日	70,900	593	570	952
平均	70,017/日			907/日

関東でも冷え込みが厳しくなり鍋物商材が本格化した。バラやカタロースといったスライス商材の引き合いが高まったことにより、相場は底堅く 600 円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	71,100	549	496	946
21日	70,600	551	533	1,065
25日	74,200	599	567	980
26日	73,300	589	563	1,049
27日	72,300	585	555	1,095
28日	70,300	590	570	1,163
平均	71,967/日			1,050/日

全国と畜頭数は 7 万頭を上回る日が続き、出荷頭数は比較的堅調に推移した。連休明けの補充や 12 月に向けた手当てによる相場上げも期待されたが、大きな変動はなく 500 円台後半の展開となった。

＜12月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 7 年 12 月の肉豚出荷予測では 147 万 5,000 頭（前年比 101%）と予測している。当市場の 12 月集荷予定せり頭数は 2 万 1,000 頭、1 日あたりでは約 913 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 5,200t（同 98.3%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 3,600t（同 97.3%）、冷凍輸入量は 4 万 1,600t（同 99.1%）と予測。

冷蔵品輸入量は、前年の輸入量が通関のずれ込み等を受けて高水準となったことなどから、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3 カ月平均では前年同期をやや上回ると予測している。

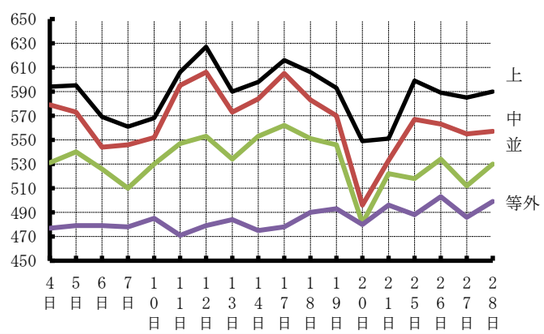
冷凍品輸入量は国内の輸入品在庫が多いこと等から、わずかに前年同月を下回ると予測する。なお、3 カ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測している。

12 月は年末需要に向けた引き合いがピークを迎え、忘年会などイベントも増える中、外食関係などの引き合いも強まる。気象庁の予報によると北日本は平年より気温が高い確立が高く、東日本では平年並または低い確率が高くなっている。2 週目以降は強い寒気によって 1 月上旬並みの寒さが見込まれている。今後は鍋物需要による実需は堅調に推移するとみられ、中部位の動きが更に良化することが期待される。

供給動向は関東周辺の産地で呼吸器系の疾病がみられるものの、全国的に出荷は順調で、12 月 20 日㈯の臨時と畜・せり販売を含め、今後は本格的に上場頭数が増える見通しだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は 600 円前後、中物平均価格 580 円前後の展開と予測する。

豚　日別相場表（11月）



東京都港区港南2－7－19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111　FAX:03-3472-0127